

Lesson 5 Build-up 1

A can/could

1. She can play the piano. 彼女はピアノが弾ける can<能力・可能>「～できる」

2. Can[Could] I use your cell phone? あなたの携帯電話を借りてもいいですか？

Can[Could] I ～?<許可> 「～してもいいですか」

「～してもいいですか」だと「May I ～?」と習ったと思います。「Can I ～?」で「～してもいいですか」となるのはなぜでしょうか？次のように考えてください。

まず例文を直訳します。

「私はあなたの携帯電話を使うことができますか？」となります。「～することができますか？」とは相手に許可を求めていることです。なので「Can I ～?」も「～してもいいですか？」という意味になります。

また過去形「Could I ～?」を使うと、「丁寧な表現」となります。英語にも日本語の敬語に当たる表現があると言われますが、この「過去形を使う」ことが敬語に当たると言われています。

3. Can[Could] you open the door? ドアを開けてくれますか？

Can[Could] you ～?<依頼> 「～してくれますか」

これもまずは例文を直訳します。

「あなたはドアを開けることはできますか？」となり、これが依頼の表現になります。ちょっと？と思うかもしれませんが、例えば自分が何かしている最中に相手をお願いする時、どのようにお願いしますか？電話中にメモを取るためにペンを取ってもらおうと誰かにお願いする時に、「そのペン取ってもらえる？」と言いますよね？これは「ペンを取ることできるよね？」という意味と同様です。従ってこれが「依頼」の表現になります。

4. An accident can happen at any time. can<可能性>「～はあり得る」

5. The rumor can't be true. そのうわさが本当であるはずがない。

can't<可能性>「～のはずがない」

ここもまずは「～できる」と考えて例文を直訳します。

「事故はいつでも起こることができる。」これだとちょっと変な日本語です。ただ、「事故はいつでも起こることができる。」ということは、「事故が起こる可能性がある。」とも考えられます。よって「can」には「可能性」の意味があり、「～はあり得る」となります。

次に「can't」が「～のはずがない」となるかについてです。これも同じ「可能性」なのですが、まず直訳してみます。

「噂は本当になることはできない。」これもちょっと変な日本語です。「～になることはできない＝なり得ない」のだから「～のはずがない」となります。

B may/might

6. May I ask you a question? 質問してもよろしいですか。 may<許可>「～してもよい」

7. He may[might] be at home. 彼は家にいるかもしれない。 may[might]<推量>「～かもしれない」

「may」が「～かもしれない」ですが、まず「may」には「容認」というイメージがあります。ここでの容認を簡単に説明すると、「そうであっても別にかまわない、問題ない」ということです。例文 6.で考えてみると、「私が質問してもかまわないですよ？問題ないですよ？」ということ。これを踏まえ「～かもしれない」ですが、これは「そうであってもいいんじゃないの？別にどっちでもいいけど。」となります。これは「本当か本当じゃないかどっちでもいいんじゃないの？」となります。つまり例文 7.の意味は「彼は家にいるかもしれないし、いないかもしれない。」となります。なので決して「断定」をしている訳ではなく、曖昧なことを言っているということです。「may」には「許可」の意味があると習ってしまうと、とても厳密な意味があると思ってしまうますが、実は結構いい加減な意味だったということです。

C must と have to do

8. You must get some sleep. あなたは少し寝ないといけません。

must<義務・必要>「～しなければならない」

9. You must not take pictures here. ここで写真を取ってははいけません。

must not<強い禁止>「～してはいけない」

10. I have to go to the dentist today. 今日、私は歯医者に行かなければなりません。

have to do<義務・必要>「～しなければならない」

11. You don't have to take off your shoes. 靴を脱ぐ必要はありません。

don't have to do<不必要>「～する必要はない」

12. He must be tired. 彼は疲れているに違いない。 must<推量>「～に違いない」

「must」には「必然性」というイメージがあります。「理屈などから考えて～でないとおかしい、～に決まっている」ということです。そこで一気に例文 12.に飛びます。これを直訳すると「彼は疲れていないとおかしい、疲れているに決まっている。」となり、そこから「疲れているに違いない。」となります。

Lesson 5 Build-up 2

A should と had better do

1. You should be more careful. 君はもっと気をつけるべきだ。

should<義務・助言> 「～すべきだ」「～したほうがよい」

2. They should arrive here soon. 彼らはもうすぐここに着くはずだ。

should<推量> 「～するはずだ」

3. You had better see a doctor. 医者に診てもらいなさい。

had better do<命令・忠告> 「～しなさい」「～するのがよい」

「should」には「正当性」というイメージがあります。「本来～であるのが正しい、～であって当然だ」ということです。そこで例文 2.の「～のはずだ」ですが、「本来、彼らはもうすぐここに着くのが正しい」→「だからすぐにここに着くはずだ」となります。ただここでも決して「断定」はしてません。ということでやはりけっこうあいまいにイメージしてみるの是一种の方法です。

B will/would

4. I'll do my homework after dinner. 私は夕食後に宿題をするつもりです。

will<意志> 「～するつもりだ」

5. My little sister won't eat vegetables. 私の妹はどうしても野菜を食べようとしない。

will not/won't<拒絶> 「どうしても～しようとしなさい」

ここもまずは直訳してみましょう。「私の妹は野菜を食べるつもりがない。」ということから「食べようとしない。」となります。

6. "Will[Would] you open the door?" "Sure." Will[Would] you ～ ?

<依頼> 「～してくれますか[いただけますか]」

ここもまずは直訳してみましょう。「あなたはドアを開けるつもりですか？」これも日本語で考えるとちょっと失礼な感じがしますが、英語ではこれが「依頼」になります。また過去形「would」を使うと「丁寧」な表現になります。

7. We would often go to the movies. 私たちはよく映画を見に行ったものだ。

would<過去の習慣> 「(よく) ～したものだ」

C used to do

8. I used to walk to school with my friends. 私は(以前は)友達と歩いて登校したものだ。

used to do<過去の習慣> 「(以前は) ～したものだ(今はしていない)」

9. There used to be a theater in the town. その町にはかつて劇場があった。

used to do<過去の習慣> 「(以前は) ～だった(今はそうではない)」

過去の習慣を表す「would」と「used to do」の違いは以下の通りです。

「would」は以前はよくしていたことが、最近はあまりしていないことを表す。

「used to do」は以前よくしていたことが、最近(基本的に)まったくしていないことを表す。

これを覚えるときにはやはり自分のことや身の回りのことで考えてみてください。

自分の場合

I would often go abroad. (以前は年に数回海外旅行をしていたが、最近はあまり旅行していない。)

I used to study Swedish. (以前はスウェーデン語を勉強していたが、今はまったくしてない。)

Build-up 3

A <助動詞+have+過去分詞>

1. He must have had a good rest. must have + 過去分詞「～したに違いない」

「～したに違いない／～だったに違いない」という意味で、過去のことにに関して確信していることを表す。
彼は十分休息したに違いない。

2. I may have left the key at home.

may[might] have + 過去分詞「～したかもしれない／～だったかもしれない」という意味を表す。
私は家に鍵を置き忘れたかもしれない。

3. She can't have made such a mistake.

can't[couldn't] have + 過去分詞「～したはずがない／～だったはずがない」
彼女がそんな間違いをしたはずがない。

4. He should have arrived home by now.

should have + 過去分詞「(きっと) ～したはずだ」という意味を表す。
彼は今頃もう家に着いているはずだ。

5. I should have taken his advice.

should have + 過去分詞「～すべきだったのに (しなかった)」
過去において実行されなかったことに対する非難や後悔の気持ちを表す。「should」が現在の話し手の考えを、
「have + 過去分詞」が過去のことを表している。
私は彼の忠告を聞くべきだったのに (聞かなかった)。

6. We needn't have hurried.

needn't have + 過去分詞「～する必要はなかったのに (した)」
「～する必要はなかったのに (実際にはしてしまった)」という意味を表す。実行された行為に対し、それをする必要がなかったことを表している。
私たちは急ぐ必要はなかったのに (急いだ)。

B would を含む慣用表現

7. I would like two tickets. would like + 名詞「～が欲しいのですが」

チケットを2枚欲しいのですが。

8. I would like to make a reservation.

would like to do 「～したいのですが」
丁寧な申し出や希望を表す。want to do よりも丁寧に控えめな言い方である。
予約をしたいのですが。

9. I would rather stay home than go out.

would rather do ～ (than do...) 「(・・・するよりも) むしろ～したい」
私は外出するよりもむしろ家にいたい。